

## 株式会社 沖縄海邦銀行 様

無線のLTEを活用し行内ネットワークを冗長化  
事業継続性が向上し、働き方改革も加速

沖縄県を中心とした地域密着型の銀行として、地域経済の発展と豊かな暮らしづくりに貢献する沖縄海邦銀行様。継続的な経営基盤強化に取り組む同行は、その一環としてNECネットワークエスアイのサポートのもと、銀行業務を支える行内ネットワークを再構築。ワイヤレスのLTEを活用した冗長構成により、顧客向けサービスと事業の継続性が大幅に向上しました。



## お客様概要

## 株式会社 沖縄海邦銀行

所在地 沖縄県那覇市久茂地2-9-12  
資本金 45億円  
社員数 875名

事業概要 これまでの銀行を超え、未来に向かって成長していく思いを込めたブランドビジョン“Beyond the Bank”を掲げ、地域の中堅・中小企業支援を中心に、時代の変化に対応した銀行サービスの提供に努める。定期的な植樹やみどりの講演会、チーム美らサンゴによるサンゴ苗の植付けなどの環境活動、地域スポーツ大会の協賛など社会貢献活動にも積極的に取り組んでいる。

OKINAWA  
KAIHO 海邦銀行

本事例の  
ポイント

POINT 1

行内ネットワークの信頼性向上と運用負荷の軽減に向け、ISDNに代わるバックアップ回線を整備したい

POINT 2

ワイヤレスのLTEを活用した行内ネットワークの冗長化を提案  
働き方改革につながるネットワークの有効活用も可能に

POINT 3

LTEバックアップによる事業継続の有効性を実感  
メイン回線障害時も銀行業務への影響はゼロに

## POINT 1

## 課題・背景

お客様に信頼される銀行であり続けるために  
行内ネットワークの刷新を決断しました。

銀行業務においてネットワークは不可欠なインフラです。お客様が頻繁に利用するATMと銀行システムをつなぎ、行内では銀行業務効率化やコミュニケーション向上などのサブシステムを支えています。

もしネットワークが止まれば、ATMが利用できなくなるばかりか、審査や照会作業も滞り、お客様に大変なご迷惑をおかけしてしまいます。社会的な信用が損なわれ、銀行にとってもリスクが大きい。

止まってはならない行内ネットワークは基幹業務を支える勘定系、行内業務を支える情報系に分かれ、それぞれメイン回線とバックアップ回線で構成されています。

しかし、そのネットワークに当行では大

きな課題を抱えていました。機器の老朽化により、故障リスクが高まっていたことはその1つです。通信トラフィックは監視していましたが、その中身や実態まではとらえきれず、障害発生時の原因特定にも時間がかかっていました。その結果、ネットワークの運用・保守作業の属人化が進み、担当者の休日・夜間作業、日々のネットワーク監視業務などが大きな負担となっていたのです。また、画像や音声といったリッチコンテンツの増加などもトラフィックを圧迫し、悩みの種となりました。

そうした中、NTT東西が2024年までにISDN回線を含むアナログ回線のサー



株式会社 沖縄海邦銀行  
執行役員 事務統括部長  
高宮城 毅氏

ビス終了を発表しました。当行もバックアップ回線としてISDN回線を利用しているため、期限までに対応が必要です。

これらの課題を解決し、お客様に信頼される銀行であり続けるためにはどうすべきか。そこで勘定系、情報系を含む行内ネットワークの刷新を決断しました。

## POINT 2 選択のポイント

ワイヤレスのLTEをバックアップ回線にする  
働き方改革まで見据えた提案は画期的です。

複数ベンダーの提案を比較・検討した結果、当行がパートナーに選定したのが、NEC ネットズエスアイです。金融機関をはじめとする多くの企業のネットワーク導入・構築・運用で経験が豊富なことに加え、当行の求めるネットワーク要件を満たしつつ、将来のあるべき姿を見据えた提案を評価しました。



株式会社 沖縄海邦銀行  
事務統括部 システム担当  
企画グループ 調査役  
大城 勝広氏

具体的には、メイン回線は有線のVPNで増

速を図り、バックアップ回線にLTEベースの「ネットワーク」を活用するというもの。物理的な回線断が発生しても、ワイヤレスのLTEなら通信を継続でき、可用性が向上します。さらに各拠点に無線LANアクセスポイント（AP）を設置し、止まらない行内ネットワークをバックボーンとした無線LAN環境を整備。どこでも安定的にネットワークにつながるメリットを、働き方改革につなげていくというビジョンが示されました。

ただし、当初はLTEの利用には不安もありました。物理的な“線”がないため、品質や性能の評価が難しいからです。これに対し、NEC ネットズエスアイは108カ所におよぶ当行全店舗の電波状況を調査。通信の接続性と安定性に問題がないことを目に

見える形で示してくれました。セキュリティに関しても、大手銀行でも採用実績の多い電子証明書認証とAES暗号化により、利便性と安全性を両立できることがわかりました。

しかも、NEC ネットズエスアイのnTOC（ネットワークータルオペレーションセンター）で24時間365日ネットワークをリモート監視し、障害対応までワンストップで対応してくれます。

こうした対応に経営層の不安も払しょくされ、金融業界では前例の少ない、LTEを活用した行内ネットワークの実現に舵を切ることができました。



株式会社 沖縄海邦銀行  
事務統括部 システム担当  
情報系開発グループ 調査役  
天願 篤氏

## POINT 3 導入効果と今後の展望

LTEバックアップと無線LANの効果を実感  
有線の業務環境にはもう戻れません。

移行作業には深夜・早朝を利用し、2017年10月から順次実施しました。不規則な時間帯にもかかわらず、現場作業に従事してくれたNEC ネットズエスアイには非常に感謝しています。

おかげで全店舗の移行作業を実質4カ月という短期間で完了できました。

新ネットワークは回線速度が大幅に増速されています。以前は各店舗1Mbpsの割り当てでしたが、現在はそれが10Mbpsに。



株式会社 沖縄海邦銀行  
事務統括部 システム担当  
情報系開発グループ  
大城 裕紀氏

大容量情報もスムーズにやりとりできる上、障害発生や遅延によるクレームも激減しました。

LTEバックアップのメリットも実感しています。ある店舗でメイン回線に障害が発生した際は、瞬時にLTEバックアップ回線に切り替わり、行内業務を終日滞りなく行うことができました。

また行内ネットワークをバックボーンとする無線LANを普段の業務で活用しています。ネットワークにつながったまま情報を持ち歩き、関係者同士ですぐに打ち合わせを行う。そんな使い方が定着しつつあります。この利便性を実感した今、多くの行員が「有線の環境には戻れない」という思いを抱えています。

運用管理も効率化されました。LTEを含



その場でPCを持ち寄り、会議する姿が定着しました

む行内ネットワークはnTOCで集中管理されているからです。現在はnTOCが障害や遅延発生時の一次対応窓口となり、人的作業が必要なものだけエスカレーションされるため、担当者の業務負荷も大幅に軽減されています。

しかも、LTEバックアップ回線は、従来のISDN回線と比べて70%のコスト削減を実現。メイン回線は10Mbpsに増速したにもかかわらず、10%程度のコスト増加にとどまっています。増速分と運用管理の効率化を考えると、数字以上にメリットが大きい。

今後は新ネットワークを働き方改革や価値あるサービスの提供に活かし、お客様に信頼される地域密着型銀行としての存在感を高めていきます。

本誌に関するお問い合わせは、下記のNEC ネットズエスアイへ

企業ソリューション事業本部 企業ソリューション販売推進本部  
TEL: 03-6699-7503 FAX: 03-6699-7904

※記載されている会社名、サービス名、商品名は、各社の商標または登録商標です。  
※記載内容は、2018年4月現在のものです。予告なく変更する場合がございます。